

ヨハネ 14：15－24 「ひとりぼっちじゃないよ！」

はじめに

話を聞いてほしい。だれかそばにいてほしい。そういうさびしさをみんな持っているでしょう。マザー・テレサが日本を訪問した時こう言いました。「豊かに見える日本で、心のさびしさはないでしょうか？ だれにも必要とされず、だれにも愛されていない心のさびしさ。物質的な貧しさに比べて心のさびしさは深刻です。心のさびしさこそ一切れのパンに飢えるよりもっともっと貧しいことだと思います」 孤独、さびしさ、それがわたしたちの国にあるのです。

でも、だれがわたしの話を聞いてくれるだろう。だれがそばにいてくれるんだろう。そばにいつもいるよ、なんて言ってくれる人は、だれもいないじゃないか！ そう思いたくなりますね。

しかし、そういうわたしたちの求めに応えることの出来る人が、世界でただひとりおられるのです。それがイエス様です。今日わたしたちはヨハネによる福音書から、わたしたちはひとりぼっちじゃない、ということを知りたいのです。

1 イエス様の一番大切なメッセージ

まず第一に、イエス様の一番大切なメッセージということでもあります。みなさんは、大事な人に伝えたい一番大切なメッセージというと、何を思い浮かべますか？

1月に健康診断がありまして、その結果がこないだ手元に送られてきました。肝臓のところがA・B・C・DのうちCランクになっていました。わたしは、父方の三人のおばさんたちも父親もみんな肝臓がんで死んだことを思い出しました。そこから妄想が始まりました。自分も肝臓がんになって、余命3か月の宣告を受けたら、何をしよう？ まず、家族への態度を改めることに1か月。部屋を掃除して、本を全部水道橋の友愛書房に売ることに1か月。家族に一番大切なメッセージを残すためにビデオを撮るのに1か月。

これから死ぬ、というときに、わたしたちは自分の大事な人に一番大切なメッセージを残しておきたい、と願うでしょう。イエス様は、明日十字架につけら

れるという前の日に、弟子たちに向かって「告別の説教」をなさいました。死を前にしての最後のメッセージを残そう。それがヨハネ14章、15章、16章に記録されている「告別の説教」です。これを読むと、イエス様がわたしたちに伝えたかった一番大切なメッセージが何であったかがわかるのです。

2 もうひとりの弁護者

第二番目に、もうひとりの弁護者、ということであります。イエス様は、イエス様のかわりに、もうひとりの弁護者を、わたしたちのところに送ってくださる。この「弁護者を送る」ということが、イエス様の「告別の説教」の中心を占めています。

イエス様は言われました。「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊はあなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである」(14:16-17)

イエス様は、もうひとりの弁護者として、聖霊様をわたしたちに送ってくださる。聖霊様は、わたしたちと永遠に一緒にいてくださる。聖霊様は、わたしたちの内側に入って来てくださる。だから、わたしたちはさびしくない。これが、イエス様が伝えたかった一番大切なメッセージです。

弁護者というのは、聖書の原文ではパラクレートスという言葉になっています。これは、古代世界においては家庭教師という意味でした。うちの子も塾のお世話になっていますけど、週に2回、180分だけです。ところが、古代世界において家庭教師というのは、子どもと寝起きも一緒、三度の食事も一緒、朝から晩までつきっきりで面倒を見ました。それこそ読み書きソロバンから、服の着方、箸の上げ下ろし、立ち居振る舞い、人との付き合い、口のきき方、世渡りの仕方にいたるまで、すべて手取り足取り教えたのです。

そういうパラクレートス、そういう聖霊様が、わたしたちのところ来てくださる。しかも聖霊様は、わたしたちの外側にくつつくというのではない。わたしたちの心の中に入って来て、わたしたちの内側にずっと住んでくださる。永遠に一緒にいてくださるのです。

わたしが士官学校に入校する前に、杉並小隊の若い戦友と二人で近所の公園で子ども伝道をしたことがありました。戦友がギターで賛美して、小学校3年生ぐらいの男の子に、「四つの法則」というトラクトを使って伝道しました。イエス様を信じるお祈りをした後、男の子にきいてみました。「聖霊様はいまどこにいるかな？」男の子は自分の胸をゆびさして「この中にいるよ！」と言いました。ああ、ハトのように素直に信じるって、どんなに大切だろう、と思いました。

3 ペリコレーシス 相互内在

さて、パラクレートスを説明しましたから、ついでに、もう一つカタカナ言葉、ペリコレーシスについて、説明いたしましょう。

ペリコレーシスというのは、ギリシャ語でありまして、もともとは封筒の中に入れる、というほどの意味ですが、これが神学の用語としましては、「相互内在」という意味になります。

どういうことかと言いますと、ヨハネ14：11のイエス様のお言葉、「わたしが父の内におり、父がわたしの内におられる」ということ。これがペリコレーシスです。

すなわち、イエス様が父なる神様の中におられる。イエス様が父なる神様の中にそっくり全部入っておられる。それと同時に、父なる神様がイエス様の中におられる。父なる神様がイエス様の中にそっくり全部入っておられる。これが相互に入り込んでいるという、不思議なペリコレーシスであります。

ロシアのおみやげにマトリョーシカという人形がありますけど、あれは、人形の中に人形が入っていて、人形の中にさらに人形が入っています。三位一体の神様を人形にたとえるのは本当は不適切なことですけれども、父なる神様の中にイエス様がおられる。そのイエス様の中にまた父なる神様がおられる。そうして、イエス様は聖霊様の中におられる。その聖霊様の中にまたイエス様がおられる。そのように相互に入り込んでおられる。相互内在的三位一体と申します。これが聖書が告げているほんとうの神様のありようです。

神様がペリコレーシス、相互内在的三位一体の神であるとしたら、その論理的

帰結として、わたしたちの身に何が起きますか？　こういうことがわたしたちの身に起きることになります。

すなわち、ヨハネ 14：20 がわたしたちの身に起こるのです。イエス様のお言葉です。「かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内にいることが、あなたがたに分かる」

イエス様が父なる神様の中におられる。そのイエス様は聖霊様の中におられる。その聖霊様は、わたしたちの心の中に住んでくださる。聖霊様をとおして、イエス様がわたしたちの中に住んでくださる。しかも、イエス様がわたしたちの中に住んでくださるばかりじゃありません。

ヨハネ 14：23 「イエスはこう答えて言われた。『わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしはその人のところに行き、一緒に住む』」

イエス様の中に父なる神様がおられる。そのイエス様が聖霊様をとおしてわたしたちの中に住んでくださる。すると今度は、イエス様をとおして父なる神様がわたしたちの中に住んでくださる。父と子と聖霊なる三位一体の神様が全部、わたしたちの心の中に住んでくださる。

だからパウロは、こう言いました。「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです」（コリント一 6：19）

だからドイツの詩人ノヴァーリスは、こう言いました。「人間は歩く神殿である」 実に、わたしたちの中に、父なる神、子なる神、聖霊なる神、三位一体の神が永遠に住んでくださるのです。

その上でイエス様は言われました。「あなたがたには分かる」（14：20） イエス様がわたしたちの中に生きてくださるので、イエス様の命によってわたしたちは生かされる。この生かされてある喜びを、わたしたちはこの身に実感できるという。「あなたがたには分かる」というのです。

その心境を歌ったうたが救世軍歌集 136 番にあります。

あなうれしわが身も 主のものとなりけり
うき世だにさながら あまつ世々のここちす

なんとすばらしいことだろう。わたしの全存在は主のものとなった。この世に生きているのに、なんだかもう天国にいるような気分だ！ だから、歌わずに
いられない。

この喜びはどこから来るのでしょうか？ 「わたしはひとりぼっちではない」という事実から、この喜びがくるのです。だれかそばにいてほしい。父なる神様がそばにいてくださいます。イエス様がそばにいてくださいます。聖霊様がそばにいてくださいます。そばにいてくれるだけじゃない。わたしたちの中に、わたしたちの内側に住んでくださる。そうして、わたしたちの生活のすべてをご一緒してくださる。一緒に起きて、一緒に歯を磨いて、一緒にご飯を食べて、一緒に歩いて、一緒に仕事して、一緒に苦勞して、一緒に涙して、一緒に笑って、一緒にお風呂に入って、一緒に寝てくださる。しかもこの関係は、死んだら終わり、という関係ではない。死んだ後も永遠に続いて行く関係である。この神様に、わたしたちは祈ることができる。わたしたちは何でも話すことができる。どんなことでも話すことができるのです。ヨハネ16章23-24節でイエス様は約束してくださいました。「はっきり言うておく。あなたがたがわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。今までは、あなたがたはわたしの名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる」

むすび

さびしさから解放され、喜びで満たされるために、ただ一つ必要なことは、イエス様を救い主として心の中にお迎えすることです。わたしたちの罪の身代わりとなってイエス様は十字架にかかり、死んで、三日目によみがえり、罪の赦しを宣言してくださいました。「イエス様の死はわたしのため」だと信じるとき、聖霊様がわたしたちの心の中に来て、住んでくださいます。聖霊様をとおしてイエス様が心の中に住んでくださいます。イエス様をとおして父なる神様が心の中に住んでくださいます。どうかこのすばらしい喜びを、ご自分のものとして受け取っていただきたいと思います。